全愛知大学野球野球連盟選抜メンバーによる ハバロフスク（ソ連）親善野球について

滝　　正　男

はじめに

愛知大学野球連盟が結成されて，今年が40周年になる。その記念事業の一環として，去る8月4日から11日まで，ソ連ハバロフスク市に，愛知大学野球連盟は，1部リーグを主体とした選抜メンバーで親善野球を行った。

その報告ともいうべき，ソ連の野球の現状並びにその他について，見たこと聞いたことを順を追ってレポートしてみようと思う。

A．遠征への経緯

何故ソ連へ親善野球を行うことになったか

1．昨年11月19日（土）（1988年）中京大学が当番校（当理校は1年交替で，順次1部校から4部校があり，夫々責任を持って，その年のリーグ戦を統轄運営する）であったので，中京大学八事学舎会議室で理事会，総会が開催された。この会議の主目的は，秋のリーグ戦の決算報告（1部〜4部）の承認。

この会議で，当番校の深谷弘次監督が，〔明年は当連盟結成40周年に当たる。何か行事を行うか，または，見送るかをそろそろ考えねばならないが〕。との発言があり，その発言のもとに各校理事から意見が述べられた。大勢は〔明年秋頃40周年記念パーティーを行ったら〕ということになり，その準備のため委員会を設ける。委員長には滝正男連盟副会長が中心に

なって案を練るということになった。

委員には明年度（平成元年，1989年）当番校の愛知工業大学岡田静雄野球部長，同校川合康夫監督，次年度当番校（平成2年）である名古屋商科大学杉浦計司監督，2部校以下を代表して2部校の名古屋学院大学丹羽利男監督が指名された。

2．恒例の報道関係者と連盟側の忘年会が，12月8日開催。此の時，私が各理事及び委員の方々に，集合時間の40分前に集まって頂き，秋のパーティーの腹案を提示，協議した。その際多くの個人的意見がでた。即ち，パーティーも結構だが，この際思い切って海外遠征を計画したらどうか，過去にも結成記念として海外親善試合を行った経緯がある。

因みに，

結成15周年記念の，昭和38年11月，全愛知選抜チームが，復帰前の第1回沖縄遠征。

結成20周年記念の，昭和42年12月，全愛知選抜チームが，第2回沖縄遠征。

結成25周年記念の，昭和49年12月，全愛知選抜チームが，フィリッピン遠征。

結成30周年記念の，昭和53年12月，全愛知選抜チームが，第2回目の台湾遠征。

結成35周年記念の昭和59年11月には，〔愛知大学野球連盟35年史〕を発刊した。

丁度10年間選抜チームの海外親善野球もない。海外遠征を計画し発表することによって，選手もその選に入ろうと努力し，好試合も展開され，リーグ戦も盛り上がりを見せて活性化につながるという意見が圧倒的であった。

具体的には，韓国，ハワイ，台湾，アメリカ西海岸という話も出た。結論的には1992年，スペインのバルセロナで開催されるオリンピック大会から，野球が正式種目として採用されることになり，ソ連も最近野球に力を入れだしたと聞くから，経費的にも余り無理がなさそうだから，ソ連を第1の交渉国としようということになった。

報道関係者との懇親も進み，ソ連遠征の話が出たところ〔ソ連はオリンピックで総ての競技でアメリカと対等して対抗意識も強い。ああいう国だから，国家が力を入れだしたら強くなるであろう。野球はまだ始めて間がない。台湾，韓国，ハワイ遠征よりニュース・バリューがある。計画するならソ連遠征だ〕。

という話も出て会は盛りあがった。

3．年が明け今年1月19日，日本学生野球協会，長船騏郎事務局長に電話して，〔愛知大学野球連盟では，今年の夏休みを利用して，結成40周年を記念して，ソ連遠征の話がでているが，その手続，窓口，支障なきや否かを問い合わせたところ，〔ソ連遠征は相手国側が受け入れOKなら差し支えない。日本側の窓口としては，ベースボール・マガジン社の池田恒雄社長が，3年前からソ連側の野球向上のため，物心両面の援助をしておられるから，先ず池田社長を通じて交渉を依頼したらどうか〕との示唆を受けた。

このことを知り委員会を開き，更に緊急理事会，総会を開催，正式の議題に乗せ，交渉するか否かの会議を1月26日弥生会館で開催。費用問題，参加の大体の人員，日程等を協議，賛成を得て，ベースボール・マガジン社に意向打診することになった。

翌日，ベースボール・マガジン社秘書室長長井健三氏に手紙連絡したところ，長井氏より〔誠に結構な企画である。池田社長に貴連盟の趣旨を伝えたところ，社長も大変喜んでおられ，当社としても全面的に協力する。一度細部を打ち合わせるため上京されたら〕。との叮重な書状を受けた。

4．1月31日，小生上京。社長室にて池田社長，池田郁雄副社長，長井秘書室長，相沢雄一郎事業部長と面接。そのとき同社長は〔昨夏，日体大，東邦大学の野球部が，ハバロフスク市に親善野球で訪ソ。ハバロフスク体育大学，同工科大学と対戦した。まだソ連チームの技術は幼稚だ，思えば3年前，近く野球が必ずオリンピック大会で正式種目として取り上げられるであろう。ソ連も今から直ぐ野球に取り組んだらどうかと訪ソしたとき，ハバロフスク市長パンチエンコ氏に話をし，その後，バット，グロー

ブ等野球道具一式持参して，故沼沢康一郎氏（早大OB，元プロ野球コーチ）を帯同して，ハバロフスク市に飛んで，両大学の野球部選手を1週間指導して，野球の手ほどきを一から初めたのが初まりである。そして野球場がないようでは仲々成果は上がらないから，土地はいくらでもあるではないか，先ず野球場を造れと強く進言し，これが1年後に実現の運びとなった。

今年，3月下旬から4月上旬にかけて，私が同市長を日本に招待することになっており，その折，同市長の時間的余裕があれば，名古屋にお連れしてもよい。その折に貴連盟の意向を十分伝え，是非受け入れ体制を整えてくれるよう依頼するが，取敢ず至急テレックスを相手側に打っておく。また，3月下旬から4月上旬にかけ，ハバロフスク体育大の選手が，昨夏，日体大の訪ソのお礼として，合宿費は日体大の負担，往復旅費は当社負担で来日することに決定しておる。吃度貴連盟の訪ソを市長は喜んでくれるものと確信している。

日程が1週間ほどならば丁度，8月4日新潟発ハバロフスク。11日ハバロフスク発新潟行きのアエロフロート機（ソ連国営航空会社）があるのでよいではないか。今はまだ時期が早いので，飛行機その他の詳細な夏期スケジュールが，インツーリスト社（ソ連国営旅行業者）から発表されていない。決定次第発表する。旅費，滞在費については当方と旅行業者と詳細相談の上決定次第通知することにする〕。という内容で，同社長も積極的に賛意を表明して頂いた。

また当方は経費軽減のため，〔丁度休暇中であるのでホテルより，できたら大学の寄宿舎で宿泊できたら〕という希望を伝えておいた。

5．2月14日，此の報告をすべく委員会を開いた。このとき，岡田理事長（今年度当番校，愛工大野球部長）より，中日新聞社スポーツ事業部より〔中日新聞はこれまで，日・ソバレーボール大会。日・ソ体操大会を後援してきている。愛知大学野球連盟も後援してきて今日に及んでいる。訪ソ親善野球が実現したら，金額では支援できないが，ボール，バット，野球用具2チーム分をソ連側に寄贈したい。また同行手材記者の派遣も考えている〕。旨の報告がなされた。

このため我々の滞在宿泊費の軽減について尋ねてみてはどうか。また，新潟，ハバロフスク間は片道飛行機で2時間で到着する。学生に取って往復飛行機で往来するより，行きは飛行機，帰りはハバロフスク→ウラジオストック→ナホトカを汽車にして，広漠たるシベリア草原を一見させることも貴重な経験でもあるので，これも併せて交渉することになった。

6．3月18日，中日新聞社北側〔三の丸会館〕で，今シーズンの試合日程，予算案の審議，ソ連遠征についての今日までの経過報告と併せて理事会，総会の承認を受けた。

この会議で，2部校以下の多数の意見として，〔ソ連遠征は主として1部校の選手の中から選抜メンバーが編成されるであろう。折角40周年記念行事であるので，11月の記念パーティーを6月下旬か，7月上旬に繰りあげて盛大に行ない，併せてハバロフスク遠征の激励会にして，我々もこのパーティーに参加してその意義を高めたらどうか〕。との意見も述べられ，急拠，同趣旨に賛成，6月下旬，又は7月上旬，盛大にレセプションを行うことに決定，この計画立案をすることになる。

また，審判部からも同遠征に同行したい旨，発議がでて，人員，人数については後日取り決めることになった。

7．岡田理事長が4月2日上京。日体大グランドを訪問。日体大球場に来日，合宿しているハバロフスク体育大野球部監督ボルゾフ氏。相沢氏と面接，細部の打合せやTV局手材同行希望の件など相談。

8．4月上旬，相沢氏より来信。宿泊についてハバロフスク市長，同市スポーツ体育委員会議長パルシン氏，インツーリスト・ハバロフスク支局長コノワーロフ氏と交渉の結果，同体育大学の寄宿舎の代わりに，インツーリスト・ホテルに変更。寄宿舎とホテルとの差額は，ハバロフスク市側が負担することに諒解がついた旨連絡があった。

また，帰路の汽車及び船便については，インツーリスト側としては，8月上旬の時期は，ソ連への観光団も多く確信がもてない。往復共船又は飛行機か，どちらかに決めてくれとの要望もあり，委員会を開き，往復飛行

機にする旨返信する。

9．4月8日，春のリーグ戦開会式。夜，拡大委員会を開き，ソ連遠征の細部の検討に入った。即ち，役員の構成，監督，コーチ，審判員の人員，1部校配分選手の大ワク，2部校の人員等。

10．4月22日，瑞穂球場内会議室。4月28日〔三の丸会館〕での理事会にて費用分担の概要，審判の派遣人員，2部校からの選手を何名にするか，パーティーについて等。

5月14日，瑞穂球場会議室にて，パーティーの細部を打合せ。日時，場所，会費，招待先，出席OBの人数等々。

5月27日，瑞穂球場会議室において，1部校監督による各大学別選抜選手の選考についての調整及び2部校からの推薦選手など。

5月28日，閉会式後，役員2，監督（優勝監督，コーチ（同リーグ2，3位監督），マネージャー，選手，審判を正式発表。

団　長	滝　正男	（愛知大学野球連盟副会長）	
副団長	岡田　静雄	（愛知大学野球連盟理事長）	
監　督	深谷　弘次	（中京大学監督）	
コーチ	杉浦　計司	（名古屋商科大学監督）	
〃	小林　秀一	（愛知学院大学監督）	
投　手	高山　功二	（中京大学	3年）
〃	香西　潔	（名古屋商科大学	4年）
〃	稲垣　章	（愛知学院大学	2年）
〃	飯田　貴俊	（愛知工業大学	3年）
〃	阿部憲太郎	（名城大学	3年）
〃	比江島　誠	（名古屋大学	4年）
捕　手	赤松　洋明	（中京大学	4年）
〃	森　隆志	（名城大学	4年）
〃	山下　博	（愛知大学	3年）
一塁手	藤原　裕章	（名古屋商科大学	4年）
〃	楠　浩二	（愛知学院大学	4年）

二塁手	斉藤　寿和	（名古屋商科大学	4年）
三塁手	川北　尚志	（中京大学	4年）
三塁手	成田　経秋	（名古屋商科大学	4年）
〃	桜井　秀樹	（愛知大学	4年）
遊撃手	田中　延幸	（中京大学	4年）
〃	神野　純一	（愛知工業大学	1年）
〃	安部　隆信	（愛知学院大学	3年）
外野手	伊藤　達也（主将）	（中京大学	4年）
〃	大順　将弘	（名古屋商科大学	4年）
〃	堀　雄児	（愛知学院大学	4年）
〃	細川　正臣	（愛知工業大学	4年）
〃	野村　智明	（名城大学	4年）
〃	服部　孝治	（愛知大学	4年）
マネージャー	中本　忠彦	（愛知工業大学	4年）
審判委員	都築　忠		
〃	広瀬　正保		

11. 7月1日，午後6時より，名駅前キャッスル・プラザホテルにて，40周年記念パーティー並びにハバロフスク親善試合激励会が，約400名に及ぶ各大学OB，会社関係，報道関係者，梅村名古屋市議会長，プロ野球関係者，一般後援者，父兄等の出席のもとで盛大に挙行。矢野会長の挨拶，祝辞，連盟功労者表彰，審判部員表彰，ベースボール・マガジン社池田副社長のソ連遠征の話等があり，引続きソ連遠征の役員，選手の紹介等が行われた。

これより先，第2回目のソ連遠征について相沢氏，手続等一切を代行してくれるイースト・コーポレーションの係員より，最近のソ連事情，ソ連野球の分析，風俗，習慣，手続きや個人で持参すべき品物等について説明を受ける。

12. 7月15日，午後，愛工大会議室にてソ連側への土産，連盟負担経費，パーティーの純益金の配分及び役員，選手の援助金，8月4日小牧空港の

集合時間，合同練習の日時等最後の打合せ並びに諒解事項の確認。

13. 7月28日午後4時，滝，岡田，中本の3氏は中日新聞スポーツ事業部堀内局次長と面接。中日新聞，中部日本放送，ミズノ運動具店より依託された野球用具2チーム分受領。

14. 8月1，2日午後1時より愛知工大球場にて合同練習，持参するチームの荷物等の責任分担等を明確にした。

15. 此の間所管の全日本大学野球野球連盟，日本学生野球協会への申請書類を提出。承認を受ける。

B. 滞在中のスケジュールを日記順に記載する。

8月4日（金）小牧空港，午前9時集合。持参する荷物の確認。新潟までの航空券各人受領。

同行の手材記者，中日新聞運動部近藤昭和氏，CBC木原猛氏も集合。

9時30分，見送りのため矢野勝久連盟会長，審判委員長今西明氏。結団式を行なった後，矢野会長激励の挨拶。代表団を代表して滝団長の答辞を行なう。

予定時間の11時25分小牧発。約50分後，新潟空港着。新潟空港で既に東京より到着していた相沢氏，内山氏。(共にベースボール・マガジン社々員で，2名は一行と同行，滞在中の世話をして頂くことになる)。

イースト・コーポレーションの係員より搭乗券，パスポートを受領。此の日快晴，33度位の暑さであった。

新潟発17時30分，アエロフロートで一路ハバロフスクへ。日本とハバロフスクの時間差2時間。

新潟発は予定時間より45分間遅れて出発。搭乗して驚いたことには，客席両側の窓の辺りから機内冷房のため，白い煙りが湧出していたことである。この煙も飛行機が飛び立つとやがて消えた。

機中，腕時計をソ連時間にする。現地時間22時20分頃ハバロフスク空

港上空に到る。機上から見たアムール河は雄大にして，随所に多くの中洲が望見されたが，さながら海の如き感があった。

此の時間，現地の空はまだ明るく，日本時間で午後7時頃の明るさであった。

空港で簡単な入国手続，飛行場待合室で荷物到着までの間，日本製蚊取り線香が燃やされていた。バスにてホテル到着，部屋割り，24時頃夕食，午前1時30分頃就寝，第1夜を過ごす。

8月5日（土）

朝7時30分起床，8時，朝食。9時45分ユニフォーム姿でフロント集合。バスにて野球場に行く。雲一つなき快晴，バスは冷房なし，暑さ身にこたえる。今日より我々の滞在中一切の面倒を見てくれることになったのは，インツーリスト・ハバロフスク支局顧問遠藤氏（同氏は東北出身。戦後サハリンから日本に帰国せずハバロフスク市に入り，ソ連国籍を取り，65歳位で当地で永くこの仕事に携わり，我々の滞在中は，朝早くより，夜遅くまで献身的に奉仕された)。である。

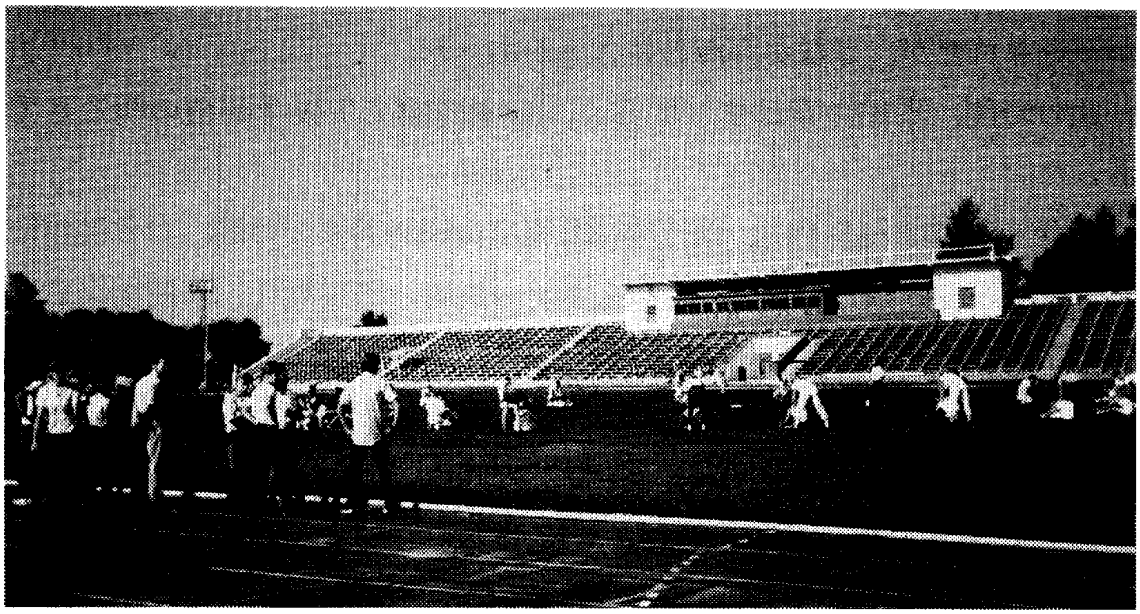
1年前程前に造った野球場は，我々の到着3日程前に当地方を襲った豪雨のため，球場表面の良い砂が流されて，使用不可能ということで，急拠デイナモ競技場に変更になった。

この競技場は，400 mトラックがあり，外野の方向にバスケットボール，バレーボールコートがあり，トラックの内側がサッカー場になっており，後方に約1,500人収容のスタンドが附設されていた。

地表一面には約10 cm以上も伸びている芝生があり，良い野球場に馴れている我々役員，選手は，ここで硬式野球試合ができるのか，怪我人は大丈夫かと尻込みする有様で心配した。

午前10時――12時30分。当市の体育大，工科大，鉄道大を混じえての合同練習。今日は時間の関係上，守備について内野ノックは愛学院小林監督が，外野ノックは深谷中京大，杉浦名商大監督が当った。

ソ連選手は一つでも日本選手の良い点を吸収しようと実に熱心に受講した。お互いに言葉は通じなくとも，態度や動作で各ポジションの選手に教えていた。



13時，ホテルに帰って昼食，14.30分～17時試合を行う。結果は第1戦

全ハバロフスク	0 0 0 0 0 0	0	(6回)
全　愛　知	23 2 3 4 9 X	41X	

午前，午後を通じて，日本ほどではないが湿気があり，33度―34度位の暑さで，日本選手も1日で顔を赤くしていた。しかし，日蔭に入ると涼しい風が吹いていた。日本出発のときに聞いた蚊やブヨなどは殆んどおらず安心した。

夕食前，市スポーツ体育委員会パルシン議長の案内で，ホテルから歩いて十分位のアムール河畔を散歩する。

洋々と流れる大河は数日前の上流の豪雨で水嵩を増し，濁っていて流れも早かった。沢山の市民や各地から訪れた観光客で河岸散歩道は賑わいを見せており，河の浅瀬では，短い夏の日を楽しむかのように沢山の老若男女が肌を出した海水着で水遊びを満喫していた。

19時～20時夕食。ホテルの部屋には冷房なく，部屋は僅かに開く硝子戸を開けて，通風を良くするようにしたが蒸し暑い夜を過ごした。

8月6日（日）

7時30分起床。ホテル前の広場で今日から朝の軽い体操が始まった。8時朝食。9時45分バスにて球場へ向う。今日も空には雲一つなき快晴。吃度暑くなることだろう。

10時より前日と同様，3大学の選手35名を混じえての合同練習。審判はストライクゾーン，ボークの説明。通訳は遠藤，相沢の両氏，汗をふき八面六臂の大活躍。バッテリーの指導は小林監督。内野手指導は深谷監督，外野は杉浦監督が各ポジション毎に指導。選抜選手もソ連側選手を動作と，カタコトの英語を交えて，グローブの使い方，足の出し方，スローイング等を指導。

12時10分終了。ホテルで13時昼食。前日及び今日の暑さのため午後の試合は18時からの薄暮ゲームに切り変え，午後は午睡。

全愛知	8	3	8	4	10	33	(5回)
全ハバロフスク	0	0	0	0	0	0	

球場往復の途次，窓ガラス越しに多くのバス，露面電車，トロリーバスが走っている。聞けば，トロリーバス10円（日本円換算），バス12円で，夜12時過ぎまで通っているという。夏の夜の蒸し暑さの関係か，太陽が仲々沈まないためか，人通りは夜遅くまで賑っている。

4日夜我々が到着した日は，夜12時近く飛行場よりバスでホテルに行ったが，通り過ぎるどの車中でも乗客は多かった。これら公共交通機関は何区乗車しても同一料金。女性運転士も多かった。

また住んでいる住宅はアパート住いが多いという。大人男子の平均賃金が1ヶ月約250ルーブル（日本円約5万5千円）だが，6畳と8畳にクッキングの部屋で，光熱費を含めて家賃1ヶ月約3,000円程で，衣・食・住のうち衣が最も高いと言われていた。

この日からデイナモ競技場入口，ホテルのエレベーターのところに，ウラジオストック，ナホトカ，ハバロフスクのチームに，我々選抜チームに依る野球大会が7日から開催される旨の広告が掲示されていた。

当日朝の地元新聞にも，下記のような記事が記載され，野球大会開催を知らせていた。

下記新聞の訳は，中京大学ロシア語安村仁志教授による。

ヴィリニュス（リトアニア共和国首都＝訳者注）とシンフェロポリで全国野球選手権第二次予選の試合が行われた。ハバロフスクの〈日の出〉チームはリトアニアの首都で，ヴィリニュス，カウナス，オデッサ，ウ

ラジオストック，バラシハ（モスクワ州）のチームと対戦し，ソ連選手権の第一リーグ（最強リーグ）への4枚の切符の一枚を手にした。

ハバロフスクのチームのほかにはMXTИモスクワ化学工業大学（モスクワ），バラシハ，シンフェロポリ，キエフ，チラスポリ，ヴィリニュス，オデッサのチームが最強リーグのリーグ戦に出場する。これらの各クラブは今回はモスクワで対戦する。試合は8月17日から25日迄行われる。

全ソ・リーグ戦の合間にハバロフスクの〈日の出〉チームは，ハバロフスクでの国際リーグ戦に出る。8月7日10時〈ジナモ〉スタジアムで開会式が行われる。日本の愛知県の野球チーム，ウラジオストック，ナホトカ，ハバロフスク工業大学の各チームが〈日の出〉チームとともに賞を競う予定である。

開会式当日には（ハバロフスク）地方の中心都市の2つの少年チームがエキジビション試合を行う。第77学校の子供たちが出場するが，この学校ではわが国の少年たちにはまだ新しいスポーツ（野球＝訳者注）が普及し始めている。ハバロフスクで予備軍（子供たち＝訳者注）についても考えられるようになれば，我が（ハバロフスクの）チームが最強リーグに進出するのも1シーズン限りとはならないと期待できるのではないだろうか。

しかし，当日夜になってもウラジオストックチームは豪雨による被害のため，シベリア鉄道が一時不通ということで不参加になった。此のチームとナホトカのチームは，チーム結成1ケ年ということで，去る7月上旬に開催された全ソ野球大会には，ナホトカチームは不参加で，ウラジオストックチームは全敗ということであった。

8月7日（月）ハバロフスク野球大会。

7時30分起床，体操，8時朝食，9時15分ホテル出発。野球大会開催。9時45分開会式。パンチェンコ市長，同女性助役，(45歳位美人)，パルシン市スポーツ体育委員会議長，ポリコフ体育大監督兼全ハバロフスク選抜チーム監督。我々同行役員整列の前を，全愛知，ナホトカ，工科大並びに鉄道大，体育大の選手が入場行進。

正面前に整列，市長の歓迎挨拶とソ連野球のレベル・アップについての激励の辞。次に民族衣裳をつけた5人の若い美人の女性から，ソ連伝統の観迎儀式に使われるという大きな黒パンの上に，湯呑み茶碗大の中に入っている塩を乗せた記念品を，4チームの主将並びに私が代表として頂戴した。

このパンは昼食時にホテルで全員に切って配られた。第3戦次の如し。

ハバロフスク工科大	0 0 0 0 0	0	(5回)
〃　鉄道大混成			
全　愛　知	11 6 2 13 X	32X	

此の試合中，競技場に隣接している建物会議室で，審判団を除く（審判2名は試合の審判中）我々役員，監督，コーチは相沢氏の通訳で，市体育議長，同副議長，同市野球連盟会長と野球の強化についての意見交換を約40分間行った。この間ゲームの運営は伊藤主将が見た。

試合終了後，ホテルで昼食。

午後14時30分，全員ホテル出発。ピオネール・キャンプ場見学。

バスは冷房がきかず蒸し風呂の如く暑い。キャンプ場へ行く車中で，遠藤氏のハバロフスク市についての説明があった。概要次の如し。

〔ソ連は15の共和国でできている。ハバロフスク市は，ソ連極東地区（含むカムチャッカ）に所属し，極東地区は88万平方km，日本全体の約24倍，人口約170万人位。当市の人口約67万人，大陸性気候で，夏は暑く冬は寒い。暑い時には40度位にもなり，寒い時には－40度位にもなる。季節の変り目にはモンスーンが吹きつける（年4回)。

8月20日を過ぎると一日一日と寒くなる。当市はアムール河に沿って南北50km，東西17kmに及んでいる。

現在はソ連極東地方の産業と文化の中心地で，16世紀頃から極東開発の拠点となった。

1858年，探検家エロフエイ・ハバロフを記念してハバロフスクと命名された。現在では新潟との間に，国際定期航空路も開かれているほか，モスクワ，レニングラード，キエフ，アシケントなどからも直行便がある。

そもそも，1858年5月初め，シベリアの大隊が，この河岸に上陸して，ロシア人が定住するようになった。それまでは北方少数民族（14民族）が住んでいた。現在も少数が住んでいる。魚，獣を取って生活していたが，8世紀から10世紀頃になって中国人が入ってきて農耕をやり，12世紀頃になって蒙（もう）古人により，さらに16世紀頃になって中国人も多くなって，これら少数民族は圧迫されるに及んだ。17世紀頃になって自国語を思い出し，専門的教育を行うようになった。

ロシア商人は原住民より，安く毛皮を買って，これをヨーロッパに持って行き商売をして儲けたという。少数民族人は数の計算にうとかったと言われている。

当市には現在10の大学がある。普通大学は4ケ年制，語学大学は5年

制，医学は6年制である。日本語はウラジオストックにある極東大学で教えている。夜間部，通信教育は教育期間が1年長い。休みは7月1日〜8月31日までの2ヶ月間で，小学校は6月1日〜8月31日までの3ヶ月間休み。9月1日からは新学期。但し大学生は，この休み期間に1ヶ月間は農村又は建設工場に行って勤労することになっている。

大学入学の競争率については，経済関係は7人に1人位，工業関係は一番楽で，定員に満たない場合もある。芸能関係についてはモスクワの芸術大学などは170人に1人位である。後は2人に1人位で，医大も大体同じである。留年していると軍隊に入らなければならないが，最近ゴルバチョフ氏の軍縮宣言で助かる学生もでてきたようだ。又医学部，薬学部には無試験推薦入学制度がある。特に北方少数民族については優遇しており，その専門家を養成して卒業後民族の医療に携わるように進めている。学校制度は10年制である。

また，ソ連全体の家族構成は，平均3.5人位で，女性56%，男性44%，一時離婚率は高かったが，最近は減少してきている。

ソ連の町名は大体どこの都市に行っても似かよっているが，有名な音楽家，政治家，文豪の名前を取って道路名をつけているが，当市でも，レーニン通り，カール・マルクス通り，トルストイ通りなどがある。交通機関としては，路面バスが南・北に，東・西はトロリーバスに区分されている。

ハバロフスク中央広場（レーニン広場）では，メイデー，革命記念日には，モスクワ同様パレードが行なわれ，正面にはレーニンの銅像が立っている。

当市はまだ130年位しか経っていない歴史の浅い市である〕。と説明がなされた。

◇ピヨネール・キャンプ場。

ホテルからバスで約45分。バスは郊外の人家の散見する中を通り，やがて林道に入る。ソ連では殆どの家庭が共稼ぎであるためと，小学校の夏休みが3ヶ月ある。ここは市の管理のキャンプ場で，9つの部屋（棟）があり，常時350人位の児童が，1サークル24日間単位で，このキャンプ場で生活しているという。24日間で140ルーブル（約3万円程）であるという。

丁度我々が訪門したときには，当市と新潟市とが姉妹都市を結んでいる関係から，25～6名の男・女少年少女が参加していた。

集会所には食堂，娯楽室，ダンス場，ゲーム・コーナー，映画室等があり，長期にわたる子供達が，あかないように工夫してスケジュールを組んでいるという。面会は土，日曜日に家族がこのキャンプ場に来て一日を共に楽しんで過ごして行くという。

キャンプ場での1日のスケジュール大要は，

8時	起床，洗面，体操
8時45分	朝食，宿舎並びに近辺を含めての清掃，催しもの，スポーツ
13時	昼食，午睡
16時30分	おやつ，スポーツ
18時	夕食
19時30分	夜の集会，歌唱，簡単なゲーム
20時	就寝

ここでは市職員並びにボランチャー等70名位で常時指導，管理，面倒を見ているということであった。

また，この外沢山の労働組合が，市から土地を借用して，独自のキャンプ場をもっており，市周辺には，約60の企業体，労働組合のキャンプ場があるという。費用は組合が半分負担，半分は個人の利益者負担であり，世話する人は労働組合員という。

帰りに新設されたという当市唯一の野球場を見学した。小さなバックネットはあるが，この球場は普段殆ど使われているようには見えず，日本では余程の田舎に行かねば見られないような球場であった。雨があがって強い陽ざしのため草も大分伸びていた。

ホテル到着後，今日まで使っていた競技場にも大分馴れたし，競技場で明日からも使用して試合をすることにした。

一端ホテルに帰って，ホテル裏側に建設されている各種スポーツ施設の見学に出た。

アイス・ホッケー並びにスケート場。

当市にある総てのスポーツ施設は，市と陸軍が協力して，沼地を埋めて建設され，管理は全部陸軍。使用は，一般人を含めて各種スポーツ団体が使うことになっている。

キャンプ巡りの暑さで，一行はややバテ気味だったが，この会場に入って，冷房のよくきいた客席に坐って，疲れも一度に吹きとんだ様な爽快な気分になった。1958年に建設。丁度陸軍がアイス・ホッケーの練習をしていた。

チーム数は極東には（含むシベリア）12チームがあり，全ソは4ブロックに分かれていて，全ソで48の強豪チームが競い合っている。そろそろシーズンに入るので，今から猛練習中とのことで，先回の冬季オリンピック大会のアイス・ホッケーのソ連代表には，当市から2名の選手が選ばれたと言う。

陸上競技場

1953年建設，2万5千人収容のスタンドあり，開設されたとき盛大なスポーツの祭典が行なわれたが，その後余り大きな大会は行なわれていないという。

ソウル・オリンピック大会の際には，当市とウラジオストックで時差調整のため約2週間，各種競技者が練習を行なって，ウラジオストックから船でソウルに出発したという。

屋内プール

丁度整備中で，中を見ることはできなかったが，50 mプールがあり競泳もでき，冬－50度でも泳ぐことができるということである。

屋内競技場

1987年完成。室内200 mトラック，バドミントン，テニス，卓球等を行ない収容人員2,100人の座席付き。丁度我々が参観した日は，近日，ベトナム，エジプト，北朝鮮（朝鮮民主主義共和国），ソ連の4ケ国陸上競技大会が行われることになっており，フロアーの修理中であった。

射撃練習場

極東地区最大の室内射撃練習場で，ライフル，ピストル射撃の練習場，正面入口には，オリンピック大会で優勝したこれら種目の選手の顔写真が掲示されていた。建築年代を聞き忘れたが，最も新しく建築されたように思われた。

また，この射撃練習場に隣接して，室外アーチェリー場があった。

8月8日（火）

7時30分起床，朝の体操をすべくホテル前に半袖姿ででた。今朝は今までと異って肌寒く感じた。8時朝食，9時30分バスにて競技場へ。11時試合開始。第4戦。

ナホトカ	0 0 0 0 0	0	(5回)
全愛知	8 9 19 6 X	42 X	

到着以来初めて試合中は曇りで涼しかった。ナホトカのチームは全員で10名。チーム結成僅か1ケ年ということで，当市の各チームと比較すると全般に劣っていた。

午後3時30分より外貨のみ使用の店へ見物に出る。

夜7時30分より，ホテル別室で，我々のために市長の歓迎レセプションが開かれた。

日本側は役員，審判，また，今日午後3時に，此の遠征のため尽力下さったベースボール・マガジン社池田副社長も来ソされて出席，通訳の相沢，遠藤氏。ソ連側は，市長，女性助役，インツーリスト・ハバロフスク支配人コノワーロフ氏，パルシンスポーツ体育委員会議長。

開会時間が約1時間近く遅れた。女性助役さんから，〔市長は重要問題が起きて会議中のため余り待たせても失礼ですから初めよう〕。ということで初まった。

テーブル上には，ウオッカ，コニャック，ビール，ジュースが並んでおり，助役から市長遅参のお詫び，我々の歓迎の辞があり，乾盃，私と池田副社長，岡田副団長の答礼の挨拶，そのたびに乾盃。さすが女性の助役さん，酒も強いが，笑みの中にユーモアを交えての話術も達者で，その上美人ときているので話題も多方面にわたった。宴途中，我々が持参した日本

酒，ウイスキーも加わった。

宴会の終り頃，市長が汗をふきふき，小走りで会場に参加。市長は早速〔遅参のお詫びと併せて，先きの豪雨による農作物に及ぼした被害が甚大で，その対策に党本部に呼び出され，7時間以上の会議で，大変疲れたが，今回，愛知チームの訪ソは大歓迎です。今日もまた1点も取れなかったようだが，ソ連の野球はまだ幼稚だ。ここまでになったのは，ベ社の池田社長のお蔭だ，大いに感謝している。両国交流親善の意義は大きい〕。と。市長もまた大いに飲み，且つ快活に談じ，23時頃談笑裏に終了した。

この宴会の間に，選手達は内山氏に案内されて，ディスコに行く。後に選手に聞けば，入場料を払って，(料金は内山氏支払いのため不明) 野外での踊りで，日本的に見れば盆踊りのようで，若い男女が楽しく，音楽のリズムに合わせて踊るということで，選手の中にも結構楽しんだのもいたようだということであった。

8月9日（水）

起床，朝食平常通り，今朝の空は，昨日夕方2時間位降った雨のためか，空の気配は一気に秋を思わせるものがあり，僅か1日で，これほどまでに変るとは思われなかった。

9時15分競技場着。半袖ではうすら寒い。競技場では少年野球チームが既に練習をしていた。9時30分より，男子，女子（12歳―14歳）のゲームを行うことになっており観戦す。第5戦は

全ハバロフスク体育大	0 0 0 0 0 0 0	0	(7回)
全　愛　知	2 3 9 1 6 11 X	32X	

試合終了後，滝，岡田，池田，相沢，遠藤各氏は，市長招待の朝鮮料理店で昼食の招待を受けた。店内及び店外にも客の行列であった。昼食は冷麺とギョウザ。その他の役員と選手はホテルで昼食。

午後15時ホテル出発。バスにてアムール河遊覧乗船場に行く。既に今朝の男・女少年野球チームの選手，キューバから野球指導のため2ヶ月間当地に来ている監督も待っており同船。

先の雨のため今日に至るも水位は約4.8 m位上がっているということで，満々とした水は，多くの中洲を廻って流れている。船はその中を遡行

し，また下る。水の流れも増水のためか急であった。17時20分下船。

18時30分から19時25分まで，我々役員一同は市中にある，州スポーツ委員会に行き意見交換を行う。要点以下の如し，

1．今回，愛知選抜チームの訪ソは，ベースボール・マガジン社と，市及び市スポーツ体育委員会との間での取り決めであるが，今後は我々の機関を通してやってくれないか。

2．ペレストロイカ（立て直し）のために，スポーツ，文化交流に関しては，モスクアーの指示を受けなくても良いことになった。そのため今後，もっと各種運動競技の相互の親善交流の斡旋の方法，並びに方途について。

3．例えば，バドミントン，卓球，テニス，アイス・ホッケーチームを呼び且つ訪日するについてはどの機関を通したらよいか。

4．今日まで貴チームとの5試合で1点も当方は取れない。現在，野球のコーチは，キューバから来てもらっているが，1，2ヶ月の長期コーチ，又は，1週間位の短期コーチでよいから適当な人の人選，派遣に努力してくれないか等であった。（9月1日から元読売巨人軍監督川上哲治氏が1週間ハバロフスク市に野球の指導に行かれた）

8月10日（木）

朝食時に遠藤氏より，夏の甲子園大会で東邦高が，1回戦で倉敷商に2―1で敗れたことを知らされた。

ホテル9時出発。バザール見学。

いわゆる自由市場。生産者が一定量を協同組合又は国営市場に供出し，残った産物をここに持ってきて，市民に供給するというシステムで，ここで売っているのは花，ピーマン，セリ，サクランボ，タマネギ，リンゴ，アンズ，ブドウ，西瓜など所せましと屋外の机の上に並べられて売られている。屋内建物の中では各種の肉が売られていた。雰囲気としては，資本主義国の市場と変わらない。又屋外売り場の道路沿いには衣料品や帽子，靴などが売られている。

値段は聞くところによると，国営売り場より可成り割り高で，普通の品

で2倍位，物によっては4―5倍という例も少なくないというが，第1にソ連の人に取っては，長い行列をしなくてもよい気安さと，利便さが人気を呼んで，毎日多くの人々がここに出掛けてきて，日常生活の衣・食を満喫しているようだ。

ここでは遠く飛行機で品物を，タシケント・ウズベク共和国からも運んできて並べられているという。

バザール見学後飛行場近くにある日本人墓地参拝。

この墓地には248人の軍人，兵士と2名の民間人の墓がある。管理はハバロフスク市であるという。昭和20年8月15日，第2次世界大戦終結。旧満州（現，中国東北部）からこの地に送られてた日本軍兵士が，殆ど夏の軍服であったがため，11月に入って寒さと長い旅の疲れと，食料不足のため等が重なって，亡くなった人，及びその後の作業中に亡くなった人の墓で，墓標は後になって厚生省から送られたものだと言う。

競技場に到着後，今日は日本チームによる，紅白試合を行った。見学者は当市の野球関係者，全選手，少年野球チーム，キューバの指導者達であった。

この紅白戦をもって我々の親善試合の，全スケジュールも無事終了した。何よりよかった点は，一人の怪我人もなく元気で終えたことである。

全員の昼食は14時から，前日我々が市長から招待を受けた朝鮮料理店。今日は全員が市長招待。冷麺とギョウザであったが，味が馴れていないためと，暑さと疲労のためか，全選手の食欲は2，3日前から，めっきり減ってきたように見受けられ，1人前を喰べた選手は少なかったように思う。

午後は最後のショッピングに出たが，私と岡田氏の2人は，女性助役の招待ということで別荘への見学であった。(15.00時～16.30時)

場所はピオネール・キャンプ場の近くであった。入口の門のところに2人の男性，1人の女性が我々の到着を待っていた。聞けばここの農業協同組合の役員だと言う。集会所でその人達の話を聞き，茶の接待を受け農場の見学をした。

ここは市から土地を借り受け，1軒が600㎡（約200坪）の割りで，堀立小屋らしい小屋（別荘と称しているが）を1軒，1軒建てている。この小屋

は，日曜大工とか，知人，家族の協力を得て自分で作るケースが多く，借人は町から週末や休暇を利用してここで過ごし，庭に各種野菜，果物，花を植え，収穫した品物は，協同組合へ供出し，自分達が喰べ，残ったものは組合を通じてバザール等に出しているという。現在ここの組合の構成員は約300軒で，各地にこのような共同組合が沢山あるということであった。

夜17時から，最後の市長招待パーティーがホテル別室で催された。この夜も市長が，やや遅れて到着。この日は，州知事から水害による農作物の対策に対しての協議であったと言う。農作物の被害はソ連の消費経済に及ぼす影響の甚大さを思わせるに十分であった。

ソ連側出席者は，当市の全チームの役員，選手，市，州，共産党スポーツ議員の多くの人々。日本側は我々選手団，並びに池田副社長以下は，会場入口で待機していた民族衣裳をつけた男性，女性数人の，ソ連調音楽のバンドに迎えられて入場。市長の挨拶。答礼の挨拶後乾盃，会食に入った。

折を見て，我々が持参した中日新聞，中部日本放送，ミズノ運動具店寄贈の2チーム分のグローブ(30個)，ミット（2個)，バット（5本)，ボール(7打)，審判道具1式と，我々の持参したボール，バットの贈呈式を行なう。市長及び関係者から〔大変高価且つ貴重な品々を沢山頂戴して恐縮だ。有効に使用して，もっともっと強化を計りたい〕。旨の謝辞が述べられた。

宴も酣なわになり，両国の役員，選手が盃を互いに交換し，ソ連の音楽に合わせて共に踊り，友好と親善を見せ，言葉や国境を離れ，今までの堅さもほぐれ，和やかな雰囲気の中で宴も進行した。宴の途中市長から一人ひとりに感謝状が送られ，立派な優勝カップも授与された。

終り頃，ソ連側全員がバンドに合わせて，日本でよく知られている〝カチューシャ〟の歌が歌われた。又，ソ連側女性助役は，日本チームに対して，〔サクラ，サクラ〕の歌を求められ，バンドに合わせて歌ったが，練習をしてない関係もあってか，若い選手は歌詞を知らなかった者が多く見受けられた。楽しい一夜であった。

8月11日（金）

朝5時起床，6時各人の荷物をロビーに搬出。7時ホテル出発，空港へ。空港到着後簡単な朝食。早朝というのに空港に見送りのため女性助役，体育大ボルゾフ監督，バシロン市長秘書等の顔が見えた。

何の検査もなく，9時10分，エアーフロート機は空港を出発，一路新潟へ。

新潟空港着午前8時50分（日本時間)。機内放送によれば新潟空港は晴，23度の由。

無事新潟空港に着陸，殆ど無検査で有意義なソ連親善試合を終えた。

C．ソ連野球の現状

遠藤氏が5日，朝食のとき，〔ソ連には現在，大学を中心に50以上の野球チームがある。(モスクワ，レニングラード，イルクーツク，キエフ，オデッサ，リガ，パーリング，タシケント，ゴーリキ，ウラジオストック地区等)。

その中で当市がソ連野球の発祥の地である。7月上旬，モスクワで24の強い代表チームが集まって全ソ大会が開催された。

我々が今日から試合を行なう，ハバロフスク体育大を中心とした，全ハバロフスク選抜チームは，此の大会で2位（準優勝）であった。このため此の大会で1位〜5位までのチームには，9月から順位によって国家から補助金がでることになっている。

また此のチームの中で，5名のスポーツ・マスターもでた。スポーツ・マスターは大人男子の平均賃金が1ヶ月約250ルーブル（約5万5千円見当）で1.5倍の上乗せがあり，625ルーブル（約13万7千円）受領できることになっている。

此のスポーツ・マスターは野球の場合2ケ年間有効で，3年目に技術審査があり，それによって引き続き有効か，打ち切られるか判断される。

先の大会から勝ち残った8·チームが8月17日から，モスクワで統一全ソ大会がある。

此の大会で5位までに残ると更に補助金が加算されることになってお

り，先の大会で，スポーツ・マスターの選に洩れた選手は，この大会で，選に入ろうと躍気になっている。監督も選手も今回の親善試合はグッド・タイミングだと喜んでおる。

私の見たところ，野球はまだまだ幼稚だが，一寸鼻を高くしており，態度も大きくなったと思う。一つペシャンコに叩いて，目を覚めさせてやって欲しい。一試合50点以上取らなかったら帰ってもらっても良い〕。と強い要望があった。

試合の結果は記述したごとく，現在のレベルは，まだ高校1年生の6月頃までのCクラスといったところだ。

無理もない。日本の野球の歴史は，およそ100年だが，ソ連では僅か3年しか経っていない。ソ連側の選手はほとんどが他のスポーツからの転向組である。やり投げ，重量挙げ，バスケットボールなど多岐にわたり，教える側の監督も元ハンドボール選手といった具合である。国家と党が全力で力を入れ初め，奨励金もチーム，個人に出すようになって本格的軌道に乗り初め，チーム数も各地に増えつつある。近く陸軍チームや，キューバ，ニカラグアからの留学生を中心とした学生チームが結成されるという。

こんなこともあった。チーム結成1年目のナホトカチームとの試合中，1死3塁の守りで，中飛で3塁ランナーが，タッチ・アップして本塁へ走った行為の意味がわからず，〔どうして?〕と，初めて参加した日本の審判員に説明を求めたケースもあった。

また今回初めて2人の審判員も同行，2人共20年を超えるベテラン審判員で，試合のジャッジばかりでなく，合同練習では，投手ボークの基本から，ソ連では初めての審判講習会も開催，簡単なルールの説明，きびきびした動きと的確なジャッジは大きな感銘をソ連側に与えた。

試合の流れを構成するのは，アンパイアーということを認識させたことは大きい。

試合に大差がつき，相手チームに1点も与えなかった大きな原因は，ソ連チームの投手に素質のある選手が3，4人いたが，ブルペンでの投球練習には，大いに見るべきものがあったが，いざ試合となると，スピード，コントロールもなくなり，丁度我々チームに取って，打ちごろのスピードであった点が起因している。

打者は日本チームの投手のスピードについて行けなかった。それでも，終り頃の試合では，スピードにも馴れて，安打も打てるようになり，その意義は大きかったと思われる。

10日の日，我々選抜チームの紅白試合がソ連側の要望で行った。

ハバロフスク地区，ナホトカチームの全選手，役員が全員観戦，試合後に〔初めて高度な野球試合を見た。野球の面白さ，楽しさもわかった。これは強くなる前兆だ〕と。

また，当地方スポーツ委員会アンドレイエフ氏は〔野球を強くするには底辺を拡大することが急務である。それには少年野球チームを沢山つくることである〕。と強調していた。

最近，当市にも2つの少年野球チームが誕生し，われわれ選手の練習と試合に毎日顔を出し，真剣にプレーを見守っていたのは印象的であった。

D．その他滞在中に感じたこと。

1．日用品について。

ソ連全体及びここハバロフスク市でも，インフレが昂進している。特に日用品における化粧石鹸がひどいらしい。これは中・小の組合に，開かれた取引が認められるようになって，急に原料等が隠され，値上がりを待っているのではないかと思われる。

そのため生産が急に減少したか，値上がりを待って売り惜しみがでて，倉庫にしまって店頭に出さないのが原因ではなかろうか。後1ヶ月すれば，ハバロフスク市でも2ヶ月に1個の石鹸の配給制になるのではないかと心配していた。

2．服装について

バスの中から散見するのみであるが，ソ連では衣・食・住のうち，衣が最も高いといわれている。男性，女性の服装は比較的ヨーロッパ的習慣のためか，派手であった。みすぼらしい格構の服装は殆ど見受けられなかった。

全体としては品数も不足しており，若し日本の百貨店，ジャスコ等が店

を出し，女性服等を店頭に並べられたら，瞬く間に売り切れになるであろうとも言われていた。

3．クワスに入ったタンク。

ソ連独得の清涼飲料水。主原料は黒パン。黒パンをイーストで発酵させ，砂糖又は峰蜜を混ぜて水を加えて作られているが，暑いせいか，街中でこのタンクが出ており，行列を作って順番待ちをしている。聞けば1パイ，10カペイカ（約20円）位で売っている。

ソ連は紙コップがないためか，ガラスコップがタンクの側に2個位あり，1人の人が飲み終わらないと順番が廻ってこず，このため行列ができている。

また，町のあちらこちらに，コインを入れてジュース，クワスを売っているが，どこでも1人の人が飲み終わらないと，コップがないので順番待ちの姿が目についた。

4．日本人に対する感情。

ホテルの従業員は全員女性であった。僅かに旅行用装具（バッグ）を取り扱う人と管視人らしき人が男性であった。

日本人は今までソ連という国，ソ連人というと何となく近付き難かったような感情を持っているのではなかろうかと思われる。

僅か1週間の滞在ではあったが，今回，我々が逢ったのはごく限られた人及び子供達。アムール河畔で行きかった人達は，誰一人として敵意とか，憎悪，あるいはいくらかでも，そうした気持をもった目に出遭うことは一度もなかった。治安もよいと聞く。

好感を持ち日本人を思ったより高く評価しているとさえ感じられた。また，日本製の生活関連商品に寄せる熱い思いは特別なものがあった。

ソ連の消費財生産とサービス産業の立ち遅れはソ連人もよく自覚していた。アイスクリーム1つ買うにも行列を作らねばならない現状。こういう状態が，日本の経済力や技術などが，日本人そのものへの強い関心と好意をうんでいるように思われた。

5．その他特に野球について言えば，ソ連は去年，国際野球連盟（IBA）に加盟して，オリンピック大会を目指しているが，一番の悩みは用具の不足である。ボールはぼろぼろになるまで使い，グラブは日本からプレゼントされたものでは限度があり，自分たちで作った薄っぺらなものまで手にはめている。肝心なルールブックの方も現在，翻訳中であるということで，現に同行審判員の持参したルール・ブック2冊を寄贈している，日本語判であるため，翻訳も大変な苦労を要することであろう。

日本以外に，ソ連国内にいるキューバの労働者も大切な指導者であり，友好国であるニカラグアやドミニカのチームの指導者や，チームを招いて強化を図っているということであった。